シでは２３～２５ℓと多くなる。

材料（エローデント）	養分組成（DM%）			
	粗蛋白質	粗脂肪	NFE	粗繊維
末熟期（8/12）	10.8	3.9	48.4	28.1
同上米穂 29.4%	13.0	9.7	42.7	24.0
同上 藁 27.8%	12.7	3.6	57.3	20.8
糊熟期（9/5）	9.3	5.4	56.2	24.6
黄熟期（9/22）	8.3	3.7	60.2	25.3
完熟期（10/18）	11.6	3.4	55.5	28.7

3 指導上の留意事項

1）プランジャー型成型機の適応性について末検討である。

2）乾燥ドラム後部の材料吸引、搬送能力が充分でないと、子実がドラム内に残留する。

4 関連試験課題名

粗飼料乾燥成形施設の高度利用（昭５１～５５）

5 参考資料

岩手畜試 試験成績概要書 ５２年度

13 酪農経営における成形粗飼料の利用

1 背景と特徴

県内のヘイキューバーの操業は急速に進みつつある。しかしながら、操業度が低く、コスト高となっている。調査結果から見ると、安定的操業をしたとしても５０円/Kgを必要とする。近年、諸物価の高騰を考え併せると、値上りが考えられる。ここでは、どれだけの価格のとき、どれだけ利用し、産乳量をどれだけにすればよいかの目安を明らかにしたので、参考に供す。

2 技術の内容

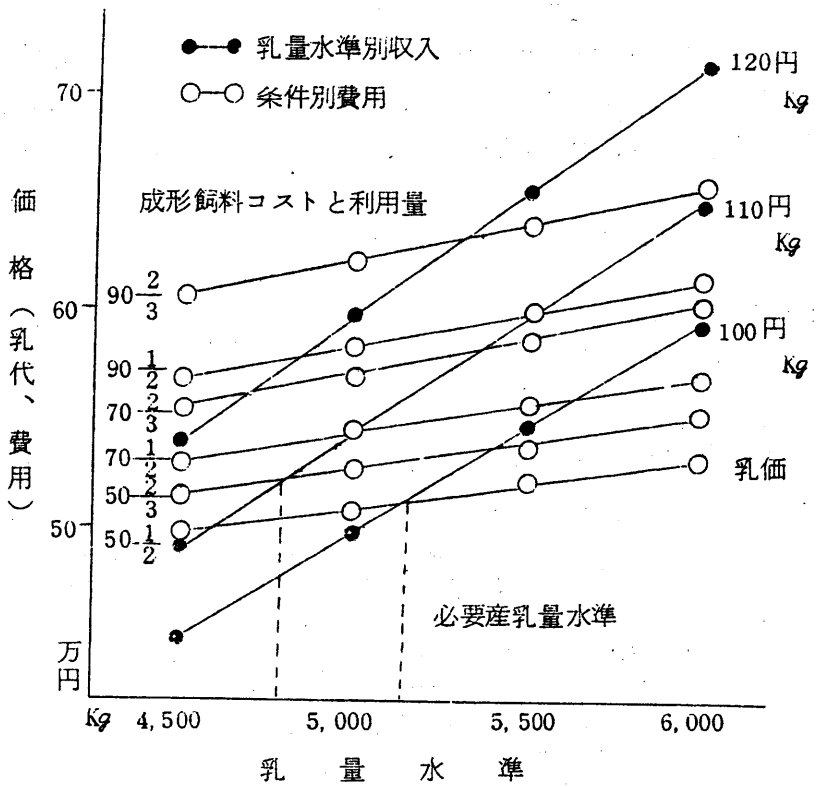
1）成形粗飼料の価格を現行の５０円/Kgでみると、乳価100円/Kgで、産乳量水準5.125Kg（経産牛１頭当り）であれば、粗飼料のうち（必要養分量の1/3は濃厚飼料）1/2までは利用できる。粗飼料のうち、2/3まで利用量を増加させるとすれば、産乳量は経産牛１頭当り5,400Kgを必要とする。

2）成形粗飼料の価格が７０円/Kg、９０円/Kgと上昇した場合、100円/Kgの乳価では、成形粗飼料が７０円/Kgで、粗飼料のうち、1/2を利用すれば、産乳量が5,650Kg必要となり、現実的でなくなる。乳価の値上りを伴う必要がでてくる。乳価が110円/Kg、120円/Kgと上昇したとすれば、その利用量の増加、成形粗飼料の値上りを吸収することができる。

3）現行の価格から利用日量を推定すると、粗飼料のうち1/3～1/2の4～5Kg/日量当りが限界と見られ、サイレージ、稲ワラ等の安価調達可能の粗飼料との組合せが必要と思われる。

4）経産牛１頭当り、乳量4,800 Kg以下を考える場合は、成形粗飼料に1/2以上依存した経営拡大は、経営能率を低下させ、好ましい経営タイプとは考えられない。したがって、サイレージを主体とし、乾草の代替としての成形粗飼料利用を考えるべきと思う。

乳価及び成形資料の価格変動



作図上のとりきめ：1. 経産牛１頭当り所得が１０万円以上

2. 成形飼料以外の飼料価格

（牧草サイレージ　6～8円/Kg
濃厚飼料　65円/Kg）

3. 計算式 $X = \frac{MP_1 - (B + G) - (C_1P_2 + C_2P_3)}{E} \times F$

昭和５１年度の参考事項参照

3　指導上の留意点

地代を問題にしなければならないところには適用できない。

4　関連試験課題名

（昭和５１～５２年　岩手畜試）

粗飼料成形乾燥施設の管理改善と流通利用）

5　参考資料

東北農業研究第２１号　獣医畜産業績発表会集録（昭５２）